
公共交通利用促進デー実施状況調査

調査結果

1 調査概要

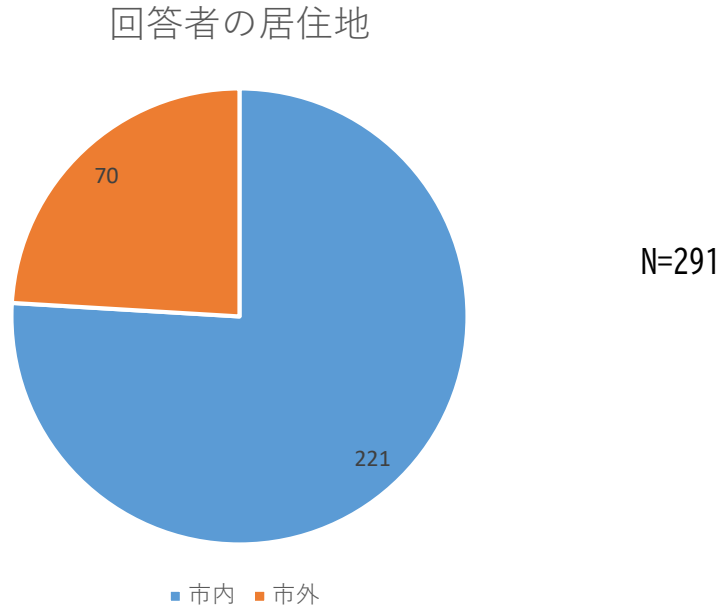
公共交通利用促進デーに参加できなかった理由等を調査するため、令和7年5月に実施した事前調査にて対象となった職員のいる所属に対し実施状況調査を実施した。

- 【調査期間】 令和8年3月5日～令和8年3月25日
【対象職員】 359人（行政職の一般職員等）
【回答者数】 291人（回答率81.0%）

復興企画部地域振興課

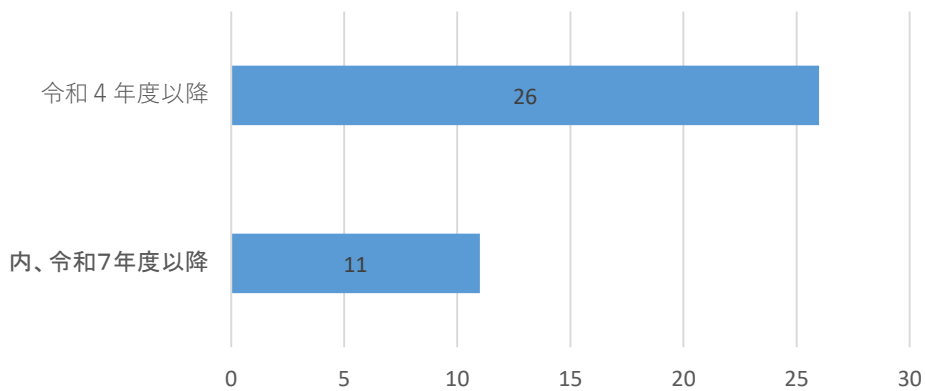
2 調査結果

(1) 回答者の居住地区



(2) 普段の通勤方法を公共交通に切替えた人数

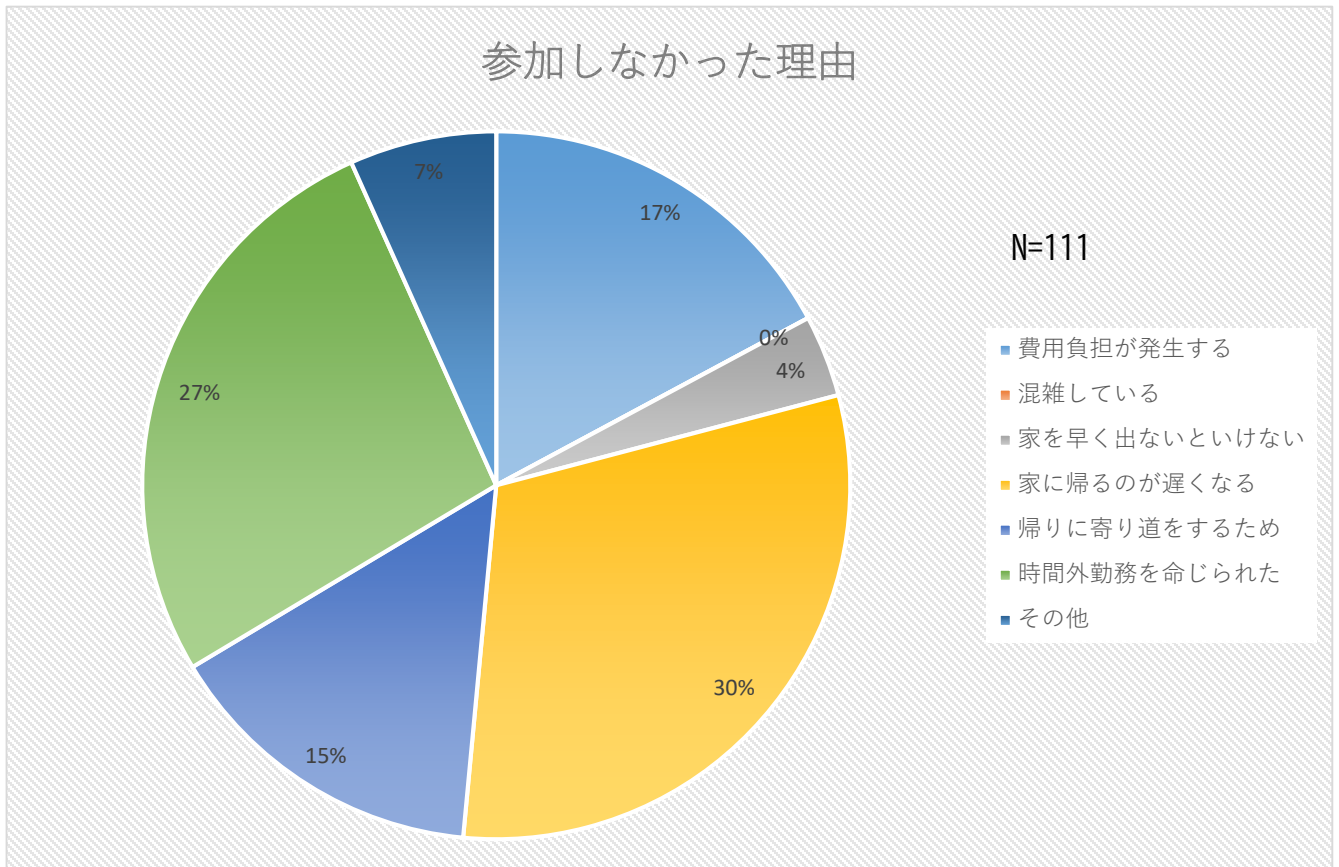
普段の通勤方法を公共交通に切り替えた人数
(人)



公共交通利用促進デー（チャレンジデー）を開始した令和4年度以降に、普段の通勤方法を公共交通に切替えた人数が26人、本年度も新規に11人新たに取り組み、一定程度利用促進に寄与していると考えられる。

2 調査結果

(3) 公共交通利用促進デーに参加しなかった理由



その他の内容（一部抜粋）

- ・ 家族の送迎をしながら通勤しているため
- ・ 病気休暇、育児休暇等の特別休暇を取っていたため
- ・ 通勤及び退勤時間帯に乗車できる公共交通がないため
- ・ 業務の繁忙期と重なったため
- ・ 引っ越しにより通勤手段を変更したため
- ・ 最寄りの駅、バス停まで距離があるため
- ・ シフト勤務の休日と重なったため

公共交通で通勤した場合に自家用車に比べ、家に帰るのが遅くなる、時間外勤務しなければならないため参加しなかったという回答が多い結果となった。ワークライフバランス推進デーと同じ日に開催したが、昨年度よりも効果は薄くなっている。時間外勤務に対する考え方を各課に再度見直してもらい、公共交通利用促進デーに参加してもらえるよう依頼する必要がある。